

興道寺廃寺跡(福井県三方郡美浜町)

こうどうじ

前方のエリアが興道寺廃寺跡/7世紀後半から10世紀初め頃まで、美浜町の耳川流域に、壮麗な伽藍をもつ古代寺院が存在したという



7世紀後半の時期は全国規模で郡司氏族による寺院造営が活発化したことが知られており、興道寺廃寺は若狭国三方郡の有力氏族である耳別氏(みみのわけし)により建立されたと考えられると云う



興道寺廃寺跡と記された表示板と説明板がある/現在は畑になっている寺院跡から、これまでの発掘調査で、金堂や塔、講堂、中門、南門の基壇が確認されていると云う [\(クリックしてビデオを見る\)](#)



創建から廃絶に至るまでの伽藍の変遷が明らかになった希少な事例であり、古代寺院造営の在り方と、郡司氏族による仏教信仰の展開を知る上で重要と云う/また、創建期の建物の軒先に使われた瓦は7世紀後半の白鳳期のもので、それは仏教によって国の安寧を図る中央政府が各地の有力豪族に寺院建立を奨励し各地で造営が進められた時期で、「国分寺建立の詔」(741年)よりも半世紀ほど前にあたると云う/耳別氏は開化天皇の孫の室毘古王(むろびこのみこ)の末裔とされており、耳川流域は、大和から来住した王族の子孫が他の氏族とも関わりながら約400年にわたって治めた地域であったと考えられると云う

こう どう じ はい じ あと 興道寺廃寺跡

国史跡

興道寺廃寺跡は耳川下流域、左岸の河岸段丘に^{こまつ}建立された古代寺院跡です。平成14年(2002)から始まった発掘調査によって^{きんどう}金堂、^た塔、^{こうどう}講堂、^{ちゅうもん}中門、^{なんもん}南門など主要な建物の^{きだん}基壇(基礎部分)が見つかり、イラスト図にあるように本格的な伽藍を備え、最盛期には南北118m、東西80mにおよぶ寺域を^ま誇っていたことがわかりました。

7世紀の終わり頃に建立され、8世紀後半以後の^{どう}堂塔の^か再建(建て替え)を経て、10世紀には^{ぜつ}廃絶したことも発掘調査によってあきらかにされています。

遺跡からは多量の屋根瓦とともに、^も塑像螺髪(土製の如来仏の頭髮部分)や「耳」と書かれた^{ぼくし}墨書土器、^{わどう}和同開珎などの銅銭が出土しました。当地の^{ごう}豪族、^{みづ}耳別氏によって^{くわん}創建された^{うぢ}氏寺と考えられます。

興道寺廃寺は北陸でも全体像がわかる数少ない古代寺院跡の一つで、北陸道の玄関口にあたる若狭地方に仏教が普及したことを端的に表す遺跡として注目されます。



興道寺廃寺
復元イラスト



再建期金堂基壇
北辺

金堂、塔の造営は7世紀後半から8世紀前半、講堂は8世紀中頃の建立で、その後、8世紀後半以前に塔の建て替えが行われ、8世紀後半～9世紀後半には金堂の建て替えと中門・南門が建立されるという伽藍造営の過程と変遷が明らかになったと云う



再建期金堂の発掘調査で出土した基壇北縁の石積みと基壇周囲の瓦溜まり



参考ホームページ

<http://info.pref.fukui.jp/bunka/bunkazai/sitei/siseki/29kuni-koudoujihaijato.html>

<https://www.kepco.co.jp/corporate/profile/community/wakasa/ew/tanpou/36.html>

https://www.pref.fukui.lg.jp/doc/maibun-c/event/25siryou_d/fil/024.pdf#search=%27E8%88%88E9%81%93%E5%AF%BA%E5%BB%83%E5%AF%BA%E8%B7%A1%27

